革新的がん医療実用化研究事業
令和6年度二次公募　公募説明会（web）

令和6年6月26日

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）

はじめに

本資料は公募要領からの抜粋で構成されています。

詳細は、公募要領（革新的がん医療実用化研究事業 令和6年度二次公募）を必ずご確認ください。

https://www.amed.go.jp/koubo/15/01/1501B_00111.html

本日のスケジュール

1. **概要説明**
   事業概要、公募概要、応募に必要な書類・提出方法、
   応募書類作成上の注意、主なスケジュール

2. **ヒト全ゲノムシークエンス解析のプロトコール情報の提出について**

3. **各Fieldの概要**

4. **終わりに**

公募HP
https://www.amed.go.jp/koubo/15/01/1501B_00111.html

本日のスケジュール

1. 概要説明

事業概要、公募概要、応募に必要な書類・提出方法、
応募書類作成上の注意、主なスケジュール

2. ヒト全ゲノムシークエンス解析のプロトコール情報の提出について

3. 各Fieldの概要

4. 終わりに

公募HP
https://www.amed.go.jp/koubo/15/01/1501B_00111.html

事業概要

がん研究10か年戦略（第５次）の概要

令和５年12月25日大臣確認（内閣府、文部科学省、厚生労働省、経済産業省）

戦略目標

がん患者を含む全ての国民と協働した研究を総合的かつ計画的に推進することにより、「がん予防」、「がん医療」及び「がんとの共生」の各分野のより一層の充実を実現し、がん対策推進基本計画の全体目標（「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」）を達成することを目指す。

今後のあるべき方向性

今後のがん対策の方向性を踏まえ、社会実装を意識したがん研究の取組を進めていく。がん研究全体として、長期的視点を持って研究成果を産み出すために、省庁連携のみならず、産官学が連携し、がん患者を含む全ての国民とともに、基礎研究、臨床研究、政策研究のそれぞれを戦略的かつ一体的に推進していく。

今後推進すべきがん研究・開発（具体的研究事項）

（１）「がんの予防」に関する研究 Field1
- （1-1）新たなリスク要因の同定やリスク層別化に基づく１次予防の推進
- （1-2）高リスク層の同定や新たな早期発見手法の活用による２次予防の推進

（２）「がんの診断・治療」に関する研究
- （2-1）個別化医療を更に推進する診断技術の開発 Field2 Field3
- （2-2）新規薬剤・治療法の開発
- （2-3）多様な患者ニーズに応じた新たな標準治療の確立 Field4

（３）「がんとの共生」に資する研究
- （3-1）誰もがアクセス可能な相談支援・情報提供
- （3-2）充実したサバイバーシップの実現

（４）ライフステージやがんの特性に着目した研究 Field4
- （4-1）希少がん及び難治性がん
- （4-2）小児がん及びAYA世代のがん
- （4-3）高齢者のがん

（５）がんの予防、がんの診断・治療の開発、がんとの共生を促進するための分野横断的な研究 Field5
- （5-1）がんの本態解明
- （5-2）シーズ探索・育成
- （5-3）バイオバンク・データベースの整備、連携強化及び利活用促進
- （5-4）先端的な科学技術の活用や異分野融合
- （5-5）政策的な課題の把握と解決

研究の効果的な推進のための環境整備

- ✓ **国際連携** 国際共同臨床試験の環境整備、海外データベースとの連携とその活用等
- ✓ **人材育成** 幅広い分野の知識を身に付けたがん研究に関わる人材の育成、若手・女性研究者や博士号取得者の活躍の場の拡大等
- ✓ **患者・市民参画** 他疾患や他領域の視点も広く交えた主体的な参画の推進等

事業体制

公募要領 1.2

令和６年６月現在

疾患領域 がん DC
中釜 斉 国立がん研究センター 理事長

革新的がん医療実用化研究事業（厚生労働省）

PS
直江 知樹
名古屋医療センター 名誉院長

PO

赤堀 眞	（株）アイクロス
大津 敦	（一社）がん医療創生機構 理事長 国立がん研究センター東病院 名誉院長
佐伯 俊昭	埼玉医科大学国際医療センター 病院長
佐野 武	がん研究会有明病院 病院長
竹内 雅博	三井不動産（株） 参事
田中 純子	広島大学 理事・副学長
中釜 斉	国立がん研究センター 理事長
永田 靖	中国労災病院 部長
古瀬 純司	神奈川県立がんセンター 総長
堀部 敬三	名古屋医療センター 上席研究員
間野 博行	国立がん研究センター 研究所長
光冨 徹哉	和泉市立総合医療センター 総長
米田 悦啓	阪大微生物研究会 理事長

Field1	**がんの予防に関する研究**
Field2	**がんの診断・治療技術開発に関する研究**
Field3	**がんの新規薬剤・治療法の開発に関する研究**
Field4	**がんの標準治療の確立、ライフステージに応じたがん治療に関する研究**
Field5	**がんの克服を目指した分野横断的な研究**

サポート機関（PRIMO）

がん・難病全ゲノム解析等実行プログラム（厚生労働省）

PO

中釜 斉	国立がん研究センター 理事長
米田 悦啓	阪大微生物研究会 理事長

全ゲノム解析等実行計画の推進にかかる研究（がん領域）

サポート機関の設置について

公募要領 1.2

- 本事業内には、独自のサポート機関が設置されており、各課題は支援を受けながら研究開発を推進していくことが前提となります。
- 研究開発代表者には進捗管理システムへの研究情報の入力等を行っていただきます。
- 必要な情報として、研究開発計画書、全体計画書などをサポート機関と共有し進捗管理に活用いたします。

サポート機関による支援内容
進捗管理システム（研究進捗のための情報整理）
技術的支援・協力を目的とする共同研究等の橋渡し業務
データマイニングシステム（国際的な研究動向把握のための情報整理）
知的財産コンサルテーション
研究倫理コンサルテーション
その他

サポート機関の設置について

公募要領 2.3

- PSPOが選定した下表に示す専門技術について、専門家との共同研究を仲介する支援を受けられる場合があります。
- 専門技術の具体的内容や条件等については、採択後にPOおよびサポート機関と相談していただきます。
- 共同研究にかかる費用については、採択課題の研究費として計上していただく必要があります。

共同研究を仲介する専門技術項目
・日本人がん患者由来のJ-PDX（Patient-Derived Xenograft）ライブラリー活用 ・国立がん研究センター（NCC）バイオバンクの活用 ・ゲノム解析支援 ・バイオインフォマティクス・情報解析支援 ・免疫プロファイリング解析 ・プロテオミクス解析支援 ・薬物動態解析支援・生細胞イメージング解析支援（in vivo, in vitro） ・動物モデル作製

公募概要

公募研究開発課題（Fieldサブ項目）一覧

公募要領 2.1

	サブ項目	公募研究開発課題	公募要領掲載ページ
Field1：がんの予防に関する研究	1-1-1	がん予防の実現に資する基盤的研究と標的妥当性の検証	9
	1-1-2	がん予防の実現に資する基盤的研究と標的妥当性の検証【若手育成枠】	12
	1-2	個人の発がんリスクを評価するコホート研究（疫学研究）	14
	1-3	個人の発がんリスクに応じたリスク低減手法またはハイリスク者の新たな先制医療に関する研究	16
	1-4	検診への導入をめざした診断技術の開発に関する研究	18
	1-5	予防法や新たな検診手法の実用化をめざした大規模疫学研究	20
Field2：がんの診断・治療技術開発に関する研究	2-1-1	バイオマーカーを用いた診断技術の確立と実用化に関する研究	22
	2-1-2	バイオマーカーを用いた診断技術の確立と実用化に関する研究 【若手育成枠】	25
	2-2	がんの診断・治療における新規医療機器開発と実用化に関する研究	28
	2-3-1	新たな診断情報が得られる先進的な医用イメージング技術の確立に関する研究	30
	2-3-2	新たな診断情報が得られる先進的な医用イメージング技術の確立に関する研究【若手育成枠】	33
Field3：がんの新規薬剤・治療法の開発に関する研究	3-1	新たながん治療薬（再生医療等製品を除く）の治験（医師主導治験又は企業治験）への移行・導出の準備を完了することを目的とした非臨床試験	36
	3-2	新たながん治療薬（再生医療等製品を除く）の開発・薬事承認を目指した医師主導治験	40
	3-3	既承認薬（再生医療等製品を除く）の適応拡大等によるがん治療薬の開発・薬事承認を目指した医師主導治験	45
	3-4	新たながん治療薬（再生医療等製品）の治験（医師主導治験又は企業治験）への移行・導出の準備を完了することを目的とした非臨床試験	49
	3-5	新たながん治療薬（再生医療等製品）の開発・薬事承認を目指した医師主導治験	52
	3-6	新たながん治療薬（再生医療等製品を除く）及びコンパニオン診断薬の実用化に向けた研究【若手育成枠】	57
	3-7	新たながん治療薬（再生医療等製品）及びコンパニオン診断薬の実用化に向けた研究【若手育成枠】	60
	3-8	臨床上の課題解決に繋がるがんの機序解明と実用化に資する挑戦的研究【若手育成枠】	63
Field4：がんの標準治療の確立、ライフステージに応じたがん治療に関する研究	4-1-1	より有効または、より低侵襲な標準治療確立のための多施設共同臨床試験	66
	4-1-2	高額薬剤の投与法等を検討する多施設共同臨床試験	69
	4-1-3	科学的根拠に基づくがんの支持療法・緩和ケアの開発に関する研究	72
	4-2-1	小児がん・AYA世代のがんの治癒率向上と晩期合併症低減の両立を目指した標準治療確立のための臨床試験	75
	4-2-2	小児がん・AYA世代のがんを対象とした支持療法・緩和ケアの標準治療確立のためのプロトコール作成研究	78
	4-3	希少がんの標準治療確立のための臨床研究	80
	4-4	高齢者のがんに関する臨床研究	83
	4-5	難治性がんの標準治療の開発に関する臨床研究	86
	4-6	小児がん・AYA世代のがん及び希少がんの治療開発に資するレジストリ及びバイオレポジトリ研究	89

注意事項

- 今年度から事業体制が変わり、公募内容も変化しています。
- 過去の公募と同じタイトルの公募であっても、内容や条件が異なる場合があります。必ず**令和6年度二次公募**の**公募要領**をご確認ください。
- 応募に必要な書類は公募研究開発課題（サブ項目）ごとに異なります。必ず公募要領でご確認ください。
- 研究開発費の上限額として公募要領に示されている額を超える額で応募された場合には、不受理となります。上限額は公募研究開発課題（サブ項目）ごとに異なりますので、公募要領でご確認ください。

応募に必要な書類･提出方法

応募に必要な書類

公募要領 4.1～　他

応募の際は、以下の書類を提出してください。

公募要領2.1を参照し、**応募するサブ項目の番号**と**公募研究開発課題名**をご確認の上、1ページ目の記入欄に記載してください。

全応募者必須

1.【様式1】研究開発提案書

※ 必ず令和6年度二次公募の公募HPからダウンロードした様式を使用し、【様式1_記入要領】を参照の上、作成してください。

2.【様式2】ロードマップ

※ 公募HPから記入様式および記載要領をダウンロードして、ご参照ください。
自由様式を用いる場合も、【様式2_記載要領】の留意事項を踏まえて作成してください。

応募に必要な書類

公募要領 4.1～　他

該当する場合に提出

3. 【様式3】研究内容と開発対象物に関する概要およびビジネスストーリー等
   Field2-2へ応募する場合は必須。
   Field2-1-1、2-3-1へ応募する課題で該当する場合も提出すること。
4. 【様式4】研究開発の概要　Field3-1、3-2、3-3、3-4、3-5へ応募する場合は必須
5. ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式
   ヒト全ゲノムシークエンス解析を実施する場合には必須

   ここでは次世代シークエンサーを利用した全ゲノムシークエンス解析および全エクソーム解析を指します

6. 臨床試験等の実施計画書（プロトコール）またはプロトコールコンセプト
   臨床試験等を提案する場合は必須
7. 研究マネジメントに関するチェック項目　Field3-1、3-2、3-3、3-6へ応募する場合は必須
8. PMDAの対面助言の記録等　Field2へ応募する課題で該当する場合は必須
   他は該当者のみ、任意
9. 動物実験等に関する基本指針に対する自己点検・評価結果の写し　該当者のみ、任意

※ 3～5、7は公募HPから様式をダウンロードしてください。
6、8、9は様式自由です。

応募書類の提出

公募要領 4.3～　他

- 応募書類は全てPDF化して、e-Radで提出をお願いします。
- 公募HPに掲載されている「e-Rad入力にあたってのポイント（革新的がん医療実用化研究事業）」を参照してください。

主な注意点

① 提出期限（令和6年7月23日（火） 正午）厳守

期限内に提出（e-Rad登録）が完了しないと応募を受理できません。余裕のある登録をお願いします。

② 書類提出先（e-Rad登録の入り口）

公募をおこなうサブ項目ごとにe-Rad登録の入り口が異なります。
サブ項目番号、公募研究開発課題名が間違いないことを確認してください。

③ 必要書類の確認

- 提出が必須の書類はサブ項目ごとに異なります。
- e-Radで【必須】と表示されているファイルをアップロードしないと登録は完了しません。
- e-Radにアップロード可能な書類の数には限りがあるため、一部のサブ項目では、書類をまとめてZIP圧縮してアップロードする必要の生じる場合があります。圧縮ファイル内に全てのファイルが含まれていることを十分ご確認ください。

④ 事務担当者との事前相談

- 研究開発代表者による登録後に所属研究機関による承認が必要となります。研究機関の事務担当者と事前にご相談ください。 提出期限（7月23日正午）までに、e-Radのステータス表示が『応募中/申請中/配分機関処理中』となることが必要です。e-Radの画面上でステータス表示を確認し、応募が完了していることを確認してください。

e-Radに関する注意・お願い

➢ e-Rad研究者情報の事前更新

研究の健全性・公正性（研究インテグリティ）に関する誓約の入力が必要です。
研究開発代表者および研究開発分担者全員の研究者情報の更新をお願いします。

手順：
① e-Radにログイン
② トップページ右上の氏名をクリックし「研究者情報の確認・修正」をクリック
③ 「所属研究機関」タブを選択
④ 最下部の「e-Rad外の研究費の状況および役職と所属機関への届け状況」(3)誓約状況【報告している】にチェック
⑤ 最下行「この内容で登録」をクリック ⇨ e-Rad研究者情報の更新完了

➢ 早めの提出完了（e-Rad不具合回避のため）

公募〆切直前はe-Radアクセス集中のため不具合が発生する場合があります。
〆切直前を避け、余裕のある提出をお願いします。

ご注意ください

研究開発代表者が必要な情報をすべて入力すると、最後に「研究インテグリティに関する誓約」へのチェックが求められます。
この操作を終えると申請完了となりますが、ここでe-Radのレスポンスが悪くなり、タイムアウトで申請が完了しない場合があります。
不測の事態に備え、日数に余裕を持った申請と機関承認をお願いします。

※ e-Radの不具合に関する情報や、システム上の不具合が解消されない場合の特別対応などについては、公募HPに掲載されますので、随時確認してください。

応募書類作成上の注意

【様式1】研究開発提案書　全応募者必須

表紙

（様式 1）

日本医療研究開発機構　革新的がん
研究開発提案書

研究開発課題名	日本語表記	○○に関する研究開発
	英語表記	Study of ○○
公募名（事業名）		公募要領 2.2.1 の公募研究開発課題一覧から選択してく 例）科学的根拠に基づくがんの支持療法・緩和ケアの開発に関する研究 サブ項目： 4-1-3（革新的がん医療実用化研究事業） □公募要領 2.2.2 を参照し、上記サブ項目番号に対応する公募の内容を十分確認した。 ※確認したら☑
研究開発期間（全研究期間）		令和 XX 年 X 月 X 日　～　令和 XX 年 X 月
研究費総額 ※直接経費のみ		令和６年度の総額（　X0,000 千円） 全研究期間での総額（　X0,000 千円）
ヒト全ゲノムシークエンス解析		□実施する　□実施しない ※いずれかに☑。実施する場合、ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式を提出。
若手育成枠の確認 （サブ項目 1-1-2、2-1-2、2-3-2、3-6、3-7、3-8 のみ対象）		若手　□
研究開発代表者	氏名 フリガナ	
	氏名 漢字	
	氏名 ローマ字表記	
	性別	
	所属機関（正式名称）	
	所属部署（部局）	
	役職	
	E-Mail	[redacted]
	電話番号	XX-XXXX-XXXX
研究開発代表者の研究歴 （主な職歴と研究内容）		

研究開発課題名は e-Radの記載と一致させてください。

公募要領2.1を参照して、応募する公募研究開発課題名と、サブ項目の番号を記入してください。

研究開発費の上限額を超えないようにご注意ください。

ヒト全ゲノムシークエンス解析の実施について、いずれかにチェックしてください。実施する場合、ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式を提出ください。

【様式1】研究開発提案書　全応募者必須

1．研究の背景・目的

1．研究の背景・目的

(1) 研究の目的（1000 文字以内）

・1000 文字以内で、研究開発の目標（研究開発期間終了時に達成しようとする研究開発成果の目標）、研究開発のねらい（上記研究開発成果によって得られるアウトカム及びその意義）、研究開発の準備状況（これまでに進めている部分の概略）を具体的に記載してください。

(2) 背景

・国内・国外の他の研究でどこまで明らかになってお
て記入してください。
・研究開発代表者のこれまでの研究成果を踏まえ、本
ださい。本研究開発の重要性・必要性が明らかとな
産業の要請と本研究計画の関係を明確にしてくださ

それぞれ1,000字以内で記載してください。
e-Rad「基本情報」の「研究目的」および
「研究概要」に転記してください。

2．研究計画・方法

2．研究計画・方法

(1) 研究開発の概要（1000 文字以内）

・研究目的を達成するための具体的な研究計画及び方法について、1000 文字以内で記載してください。
・臨床研究においては、具体的な内容の記載（研究デザイン、エンドポイント、統計学的考察、登録数設定根拠など）を記載ください。シェーマがある場合は掲載ください。

(2) 研究開発の内容

・研究目的を達成するための研究開発の具体的手法、研究開発期間中の到達点とその達成度の判断基準などを、主要な研究開発項目毎・年度毎に分けて、焦点を絞り、具体的かつ明確に記載してください。
・複数年度にわたる研究の場合には、研究全体の計画と年次計画との関係がわかるように記載してください。

研究開発項目①：○○○○○

・研究開発項目及び研究担当者（研究開発代表者、研究開発分担者）は、「6．研究開発の主なスケジュール」の記載と一致させてください。
・研究開発代表者、研究開発分担者、研究協力者等の具体的な役割を明確に記載してください。
・各研究開発項目について、本公募事業で支援予定の期間を超える計画については、令和○年度以降としてまとめて簡潔かつ明確に記載してください。
・研究開発項目③以降がある場合は、適宜、項目を追加して記入してください。

● 研究担当者　所属機関・部署・役職・氏名

1）○○大学　○○学部　教授　◇◇　△○

2）～複数名の場合には続けて記入してください。

● 研究開発の目的及び内容

研究開発の目的及び内容を 200 字程度で簡潔にまとめてください。

【様式1】研究開発提案書　全応募者必須

2. 研究計画・方法

(2) 研究開発の内容

・研究目的を達成するための研究開発の具体的手法、研究開発期間中の到達点とその達成度の判断基準などを、主要な研究開発項目毎・年度毎に分けて、焦点を絞り、具体的かつ明確に記載してください。
・複数年度にわたる研究の場合には、研究全体の計画と年次計画との関係がわかるように記載してください。

研究開発項目①：○○○○○
・研究開発項目及び研究担当者（研究開発代表者、研究開発分担者）は、「6. 研究開発の主なスケジュール」の記載と一致させてください。
・研究開発代表者、研究開発分担者、研究協力者等の具体的な役割を明確に記載してください。
・各研究開発項目について、本公募事業で支援予定の期間を超える計画については、令和○年度以降としてまとめて簡潔かつ明確に記載してください。
・研究開発項目③以降がある場合は、適宜、項目を追加して記入してください。

● 研究担当者　所属機関・部署・役職・氏名
1）○○大学　○○学部　教授　◇◇　△○
2）～複数名の場合には続けて記入してください。

● 研究開発の目的及び内容
研究開発の目的及び内容を 200 字程度で簡潔にまとめてください。

● マイルストーン及び研究開発方法
上記の「●研究開発の目的及び内容」を達成するために当該研究担当者が実施するマイルストーン（達成しようとする研究開発の節目となる到達点・達成事項）及び達成のための方法を年度毎に記入してください。
「6. 研究開

令和６年度：

令和７年度：

令和８年度：

令和９年度以降：

「2. 研究計画・方法(2)研究開発の内容」の**研究開発項目**および**マイルストーン**と、「6. 研究開発の主なスケジュール」のガントチャートの**研究開発項目**および**マイルストーン**を一致させてください。

6. 研究開発の主なスケジュール

6. 研究開発の主なスケジュール

■目標達成に向けて取り組むべき研究開発項目を挙げ、実施期間を記載してください。
※ マイルストーン：達成しようとする研究開発の節目となる到達点・達成事項

ガントチャートの矢印の位置をマイルストーンの設定時期と一致させてください。矢印ではなく、●等の記号を使用しても構いません。

研究開発の主なスケジュール

研究開発項目	研究担当者 氏名	第１年度（R6 年度）		第２年度（R7 年度）				第３年度（R8 年度）			
		3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
① ○○関連遺伝子発現解析				←→							
					▲マイルストーン：○○○○○○○○						
・アッセ											
・発現プ											
②											
③											
④											
⑤											
⑥											

マイルストーンは、「完了」「終了」「確立」など研究開発項目の節目となる到達点・達成事項がわかるように設定してください。

【様式1】研究開発提案書　全応募者必須

2. 研究計画・方法

(3) 研究協力体制について（下記の体制が整備されている際には、詳細を記載してください）

・(3−1) 生物統計家の関与については、医師主導治験（臨床試験）を計画している研究の場合、必ず記載してください。

・(3−2) 疫学専門家の関与については、Field1-2、1-3、1-4の公募へ提案する場合、必ず記載してください。Field1-5の公募へ提案する場合は、生物統計家と両者を体制に入れるか、どちらか一方にするか研究の内容により適切に選択して記載ください。

・チェック欄「□」は、該当する箇所を「■」にしてください。

(3−1) 生物統計家の関与

a. 生物統計家の関与

■有（詳細：研究協力者 大手町大学・生物統計学教室教授 英目戸 恵子）

（主な関与：■研究企画立案(データ取得前)から　□統計処理(データ取得後)のみ　□その他）

（主な関与でその他を選択した場合、詳細：　　　　　　　　　　　　　　　　　）

□無／検討中

（理由：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

b. 生物統計家の専門性について

上記「a. 生物統計家の関与」において、『有』にチェックをした場合は、必ず記載してください。

①関与する生物統計家の学歴

○○○
○○○○○○○。○○○
○○
○○○○○○○○○○○○○。

②関与する生物統計家の職歴（研究歴）

○○○
○○○○○○○。○○○
○○
○○○○○○○○○○○○○。

③臨床試験への関与の経験の有無　　■有　　□ 無

④関与した試験の内容（具体的に）

○○○マブと○○○マブによる○○○療法の第 3 相ランダム化二重盲試験において、……。

(3−2) 疫学専門家の関与　【Field1-2、1-3、1-4、1-5のみ】記載してください

a. 疫学専門家の関与

■有（詳細：研究協力者 大手町大学・疫学研究室教授 英目戸 恵子）

（主な関与：■研究企画立案(データ取得前)から　□統計処理(データ取得後)のみ　□その他）

（主な関与でその他を選択した場合、詳細：　　　　　　　　　　　　　　　　　）

□無／検討中

（理由：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

b. 疫学専門家の専門性について

上記「a. 疫学専門家の関与」において、『有』にチェックをした場合は、必ず記載してください。

① 関与する疫学専門家の学歴

○○
○○○○○○○。○○
○○○
○○○○○○○○○○○○○。

②関与する疫学専門家の職歴（研究歴）

○○
○○○○○○○。○○
○○○
○○○○○○○○○○○○○。

③これまでに関与した研究の内容（具体的に）

○○
○○○○○○○。○○
○○○
○○○○○○○○○○○○○。

(3−3) 知財担当者の関与

□無　■検討中　□有（詳細：AMEDに支援を希望する　）

Field1-2、1-3、1-4に応募する場合は疫学専門家の関与について必ず記載してください。
Field1-5に応募する場合は、生物統計家と疫学専門家の両者を体制に入れるか、どちらか一方にするか、適切に選択して記載してください。

【様式1】研究開発提案書　全応募者必須

4. 研究開発代表者及び研究開発分担者に関する情報

4．研究開発代表者及び研究開発分担者に関する情報

	氏名 生年月（年齢：令和6年4月1日時点） 役職※1	所属機関※1 所属部署（部局）※1 役職※1	現在の専門 学位（最終学歴） 学位取得年 役割分担	令和6年度 研究経費※2 （千円）	エフォート （%）
研究開発代表者	○○　○○ S49/11（49）	○○○○大学 △△△学部△△△学科 △△△	△△△ △△博士（○○大学） H14年 研究の統括	X, XXX	
		（主たる研究場所）※1 △□大学 △△△学部△△△学科 □□□		X, XXX	XX
研究開発分担者	□□　○○ S50/11（48）	△□大学 △△△学部△△△学科 □□□	□○□ ○○博士（□△大学） H1 テ	X, XXX	XX
		（主たる研究場所）※1 △□大学 △△△学部△△△学科 □□□		X, XXX	XX
研究開発分担者					
計　2名			研究開発経費合計	X, XXX	

※1　所属機関と主たる研究場所が異なる場合は、主たる研究場所となる研究機関、所属部署（部局）及び役職も記載してください。

※2　研究経費については、直接経費を記載してください。

所属機関と主たる研究場所が異なる場合は、**主たる研究場所**についても記載してください。

e-Radの情報と一致させてください。

【様式1】研究開発提案書　全応募者必須

7. 各年度別経費内訳

7．各年度別経費内訳

・間接経費は年度ごとに円単位まで計算してください。
　表に記入する際は、金額の下３桁を切り捨て、千円単位としてください。
　（例：　4,615,385 円　→　4,615 千円）

（1）委託研究開発費

・研究開発費（代表研究機関及び全分担研究機関について合算）の内訳を記入してください。
・間接経費は直接経費の 30%以下としてください。

（単位：千円）

大項目		中項目	R6 年度	R7 年度	R8 年度	計
直接経費	1. 物品費	設備備品費				
		消耗品費				
	2. 旅費	旅費				
	4. その他	その他				
		小　計				
間接経費 （上記経費の 30%以下）						
合　計						

直接経費小計は申請する公募（サブ項目）の**年間上限額を超えない**ようにしてください。

（2）研究機関別経費

（間接経費を含めた金額を記入してください。）

・研究機関ごとの各年度の合計額を記入してください。
・分担研究機関が４機関以上ある場合は、行を追加してください。

（単位：千円）

種別	機関名	R6 年度	R7 年度	R8 年度	計
代表研究機関					
分担研究機関 1					
分担研究機関 2					
分担研究機関 3					
研究開発費合計額					

（3）直接経費の具体的な内訳や使用目的

「(1) 委託研究開発費」の各項目の主な経費について、支出計画を具体的にお示しください。
特に『2. 旅費』『4. その他』については、「2　研究計画・方法」との関係や必要性がわかるように記載してください。

（例）・研究開発項目①の○○研究における△△に用いる□□の購入：●●千円
・研究開発項目②の CRO への外注（モニタリング及び監査費用）：●●千円
・R6 年度○○学会における成果発表及び情報収集のための旅費（研究開発代表者他□名、出張先国名都市名（米国サウスダコタ））：●●千円

（1．物品費）
・

（2．旅費）
・

（3．人件費・謝金）
・

（4．その他）
・

研究計画における必要性がわかるように、**具体的に**記入してください。

【様式1】研究開発提案書　全応募者必須

9. 研究費の応募・受け入れ等の状況・エフォート

9．研究費の応募・受入等の状況・エフォート

■本研究開発課題の研究開発代表者及び研究開発分担者の応募時点における、(1) 応募中の研究費（国内外を問わず、競争的研究費のほか、民間財団からの助成金、企業からの受託研究費や共同研究費等の研究資金を含む。以下同じ。）、(2) 採択されている研究費（実施中の研究費・実施予定の研究費）、

エフォートは、その他の活動（診療や教育など）を勘案して記載してください。

【研究開発代表者】

(1) 応募中の研究費（令和●年●月●日時点）

(1-1) 応募中の研究費　AMED 研究費

資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究開発課題名（研究開発代表者氏名）	役割（代表・分担の別）	令和６年度の研究経費（直接経費）[期間全体の額]（千円）	エフォート（%）	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究開発課題に応募する理由
				20	

申請者本人への配分予定額（直接経費）

研究開発を記載 例）(6,0

(1-2) 応募中の研究費　AMED 以外の研究費

資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究開発課題名（研究開発代表者氏名）	役割（代表・分担の別）	令和６年度の研究経費（直接経費）[期間全体の額]（千円）	エフォート（%）	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究開発課題に応募する理由
科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究（R6～R7・日本学術振興会）	○○と△△の□□への依存性に関する調査研究（○○○○）	代表	3,000 [9,000]	10	本研究とは▲▲の視点から調査する意味で異なり、本応募研究により統合的に理解が進むため。（総額　9,000 千円）＊

上欄と同様に研究開発代表者の場合、総額を記載

AMEDとそれ以外に分けて記載してください。

応募中や受入予定の研究費について、本提案との相違点をご説明ください。研究費の不合理な重複及び過度の集中の排除の観点から重要になります。

令和６年度○○財団研究助成金（R6・○○財団）	●●と□□の研究（○○○○）	分担	1,000 [1,000]	5	本研究とは▲▲の視点から調査する意味で異なり、本応募研究により統合的に理解が進むため。

(2) 採択されている研究費（実施中の研究費・実施予定の研究費）（令和●年●月●日時点）

(2-1) 採択されている研究費（実施中の研究費・実施予定の研究費）　AMED 研究費

（注：本研究開発課題の研究開始年度前に終了する研究費は含みません。）

資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究開発課題名（研究開発代表者氏名）	役割（代表・分担の別）	令和６年度の研究経費（直接経費）[期間全体の額]（千円）	エフォート（%）	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究開発課題に応募する理由
○○事業（R4～R6・	●●と□□の研究（○○○○）	分担	1,000 [5,000]	0	本研究とは▲▲の視点から調査する意味で異なり、本応募研究により統合的に理解が進むため。

実施予定の研究費）　AMED 以外の研究費

究費は含みません。）

究期間・配分機関等名）	（研究開発代表者氏名）	役割（代表・分担の別）	令和６年度の研究経費（直接経費）[期間全体の額]（千円）	エフォート（%）	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究開発課題に応募する理由
令和６年度○○財団研究助成金（R6・○○財団	●●と□□の研究（○○○○）	代表	1,000 [1,000]	5	本研究とは▲▲の視点から調査する意味で異なり、本応募研究により統合的に理解が進むため。（総額　5,000 千円）＊

研究開発分担者についても、研究開発代表者と同様に記載してください。

【様式1】研究開発提案書　全応募者必須

10. これまでに受けた研究費とその成果等

１０．これまでに受けた研究費とその成果等

■本欄には、研究開発代表者及び研究開発分担者がこれまでに受けた研究費（所属機関より措置された研究費、府省・地方公共団体・研究助成法人・民間企業等からの研究費等。なお、現在受け入れている研究費も含む。）による研究成果等のうち、本研究の立案に生かされているものを選定し、（１）【AMED 事業】と（２）【それ以外の研究費】に分けて、次の点に留意し記載してください。
■AMED 事業とそれ以外の研究費は区別して記載してください。
■それぞれの研究費ごとに、資金制度名、期間（年度）、研究開発課題名、研究開発代表者又は研究開発分担者の別、研究経費（直接経費）を記載してください。また、研究成果及び中間・事後評価（当該研究費の配分機関が行うものに限る。）結果も簡潔に記載してください。

（記載項目）
資金制度名：
期間（年度）：H　年度～R　年度
研究開発課題名：
研究開発代表者又は研究開発分担者の別：
研究開発経費（直接経費）：　　千円
研究成果及び中間・事後評価結果：

過去3年度内に受けた研究費のうち、本研究の立案に関わるものを選定し、記載してください。

(1)【AMED 事業】
・AMED　○○事業（A）、R1～R4、「○○に関する研究」、代表者、40,000 千円
　××××の成果を得た。

・AMED　○○事業（B）、H30～R2、「○○に関する研究」、代表者、40,000 千円
　××××の成果を得た。

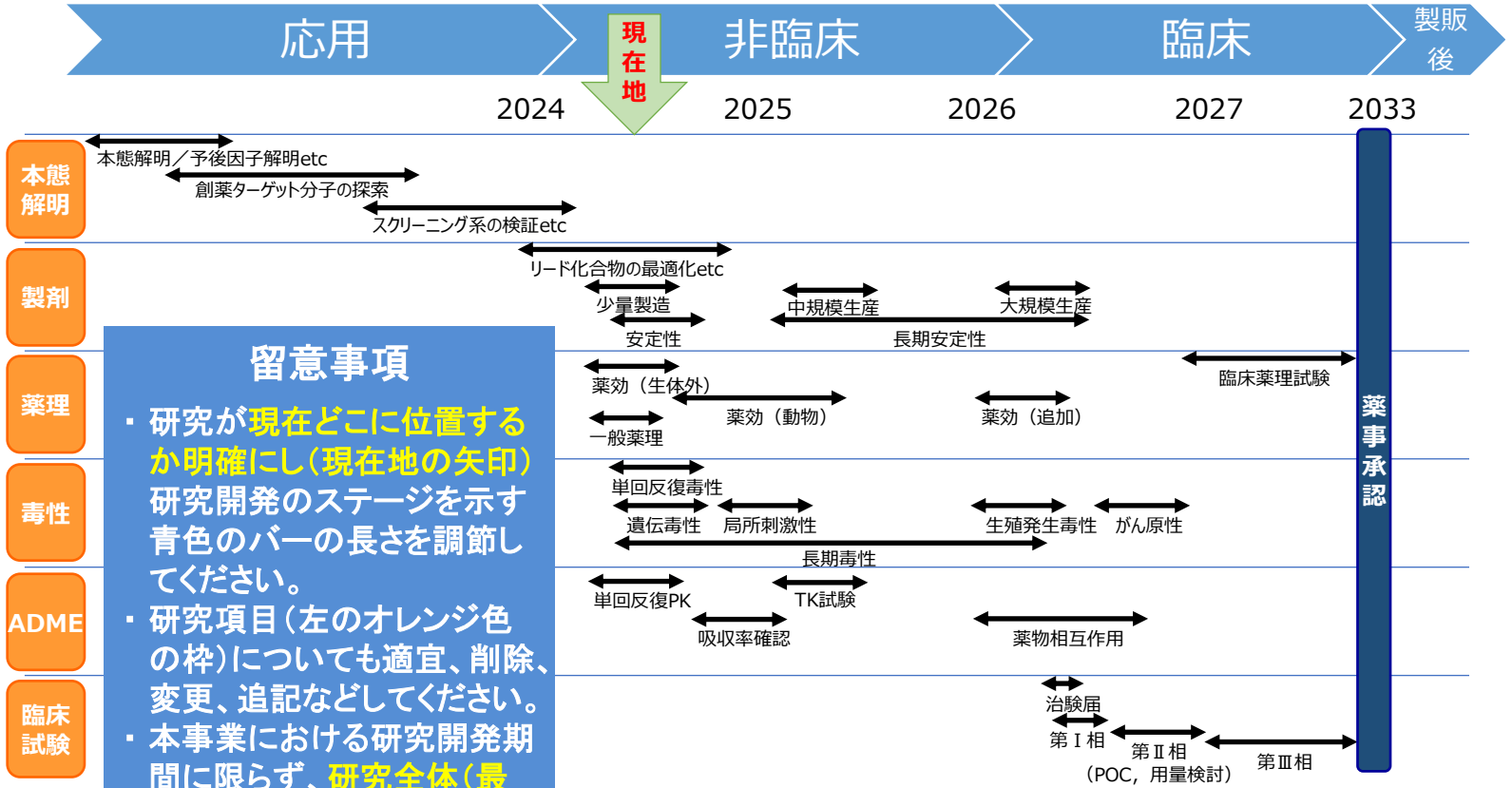
(2)【それ以外の研究費】
・基盤研究（B）、H29～R1、「○○に関する研究」、代表者、40,000 千円
　××××の成果を得た。

【様式2】ロードマップ　全応募者必須

研究開発代表者名を記載してください

応用～非臨床～臨床～実用化のロードマップ（イメージ）

研究開発代表者氏名：英目度　太郎



留意事項

- 研究が現在どこに位置するか明確にし（現在地の矢印）研究開発のステージを示す青色のバーの長さを調節してください。
- 研究項目（左のオレンジ色の枠）についても適宜、削除、変更、追記などしてください。
- 本事業における研究開発期間に限らず、研究全体（最終的なゴールまで）のスケジュールを記載してください。

ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式

該当者は必須

AMED

【ヒトの全ゲノムシークエンス解析プロトコールについて】

※　この申請を行うにあたり、公募要領中の以下の項目内容を必ず熟読してください。その上で、**「確認した」ことを回答願います。**

※　内容に不明な点が生じた場合には、すみやかに担当事務局へ問い合わせてください。

【確認事項】	「確認した」場合には、プルダウンで選択回答
（Ⅰ）公募要領　第3章3.2.7 データシェアリングについて: AMEDでは、AMEDが支援する研究開発から得られたデータの利活用を推進するために、AMEDデータ利活用プラットフォーム（以下「プラットフォーム」という。）の整備を進めています。 ※ https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/data_rikatsuyou/dai2/siryou2.pdf プラットフォームが窓口となり共有されるヒトの全ゲノムシークエンスデータについては、既にプラットフォームで共有予定となっているデータと品質を同等に担保すること、さらにはゲノム解析の先進諸国との国際共同研究でも円滑に活用可能であることを目的として、既にプラットフォーム ・クオリティーコントロール（QC）の方法 ・リファレンスゲノムとのマッピング及びアセンブルの方法 さらに、AMED研究開発で行うヒトの全ゲノムシークエンス解析は、外部機関等に解析を業務委託するか否かにかかわらず、当該ゲノムシークエンス解析に用いる検体、当該ゲノムシークエンス解析結果（FASTQ生配列データ及びVCFデータを取得するまでの過程で生成されるデータを含む）のいずれについても、以下の場合を除き、国外に持ち出すことはできません（注２）。 ・ヒトの全ゲノムシークエンス解析結果やその考察から得られた知見の学術誌への論文発表、学会発表等 ・国際共同研究や企業の利活用等、正当な理由があるものとして個別に研究者がAMEDに協議し、AMEDが関係省庁と協議の上で例外として認める場合 なお、「AMED研究データ利活用に係るガイドライン」及び「委託研究契約書」※に基づき、データマネジメントプランを見直し又は改訂する場合には、AMEDの承認を受けることが必要です。 ※ https://www.amed.go.jp/content/000079403.pdf （注１）全ゲノムシークエンス解析 ・ここでは、次世代シークエンサーを利用した全ゲノムシークエンス解析及び全エクソーム解析を指します。なお、次世代シークエンサーを用いる解析のうち、全ゲノムまたは全エクソーム以外を対象とするゲノム解析や、アレイ解析、サンガー法によるシークエンス解析は含みません。 ・生体試料からVCFデータを得るまでのプロセスを指します。 （注２） 厚生労働省の新規・再興感染症データバンク事業ナショナル・リポジトリ（REBIND）におけるヒトの全ゲノムシークエンス解析の取扱いについては、事業方針に従います。 【参考】ゲノム医療実現のための データシェアリングポリシーについて https://www.amed.go.jp/koubo/datasharing.html	（選択してください）
（Ⅱ）公募要領　第4章4.1.1 応募に必要な提案書類： 「該当する場合は必須：ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式」 ※ヒト全ゲノムシークエンス解析を実施する場合	（選択してください）
（Ⅲ）公募要領　第4章4.1.3 提案書類の様式及び作成上の注意： 「（６）ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコールの提出について： ヒト全ゲノムシークエンス解析（第3章「3.2.7 データシェアリングについて」参照）を実施する研究課題においては、所定の様式を提出することにより当該プロトコールの各項目を示す必要があります。該当課題において様式提出がない場合には「不受理」となり、審査の対象となりません。提案課題におけるヒト全ゲノムシークエンス解析の実施の有無については、十分注意して御判断ください。 また、所定様式が提出されている場合であっても、第3章「3.2.7 データシェアリングについて」の条件を満たさない研究開発課題は、「不採択」となります。」	（選択してください）
（Ⅳ）公募要領　第4章4.2 研究開発提案書以外に必要な提出書類等について： 「（１）ヒト全ゲノムシークエンス解析を実施する場合、ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式の提出が必須になります。シークエンスデータやプロトコール情報の詳細については、第3章の応募に関する諸条件等の記載を参照してください。」	（選択してください）
（Ⅴ）公募要領　第5章5.1 選考スケジュール： 「（３）ヒト全ゲノムシークエンス解析を実施する場合で、ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式の提出がない場合は、不受理とします。」	（選択してください）
（Ⅵ）研究開発提案書： 「ヒト全ゲノムシークエンス解析」の項目への記入 ※「実施する」「実施しない」のいずれかに図。実施する場合、ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式を提出。	（選択してください）

それぞれプルダウンで選択してください。

【設問】	【回答】
事業名	革新的がん医療実用化研究事業
研究開発課題名	
研究開発代表者名	
ヒト全ゲノムシークエンス解析（全エクソーム解析を含む）を実施するか（はい・いいえ）	
ライブラリー作成（キット名、断片長等）	
シークエンス反応（キット名、リード長等）	
シークエンサーの機種名（機種名・型番等）。なお、外注の場合は外注先も記入	
クオリティコントロールQCの方法	
リファレンスゲノムとマッピング及びアセンブルの方法	

すべての設問に対して回答を記入してください。

ヒト全ゲノムシークエンス解析を実施する場合、必ず提出してください。
詳細は公募要領（第３章3.2.7）を参照してください。

主なスケジュール

公募～研究開始までの主なスケジュール

公募要領 5.1

公募期間 （提案書類受付期間）	令和6年6月25日（火） **～7月23日（火）正午（厳守）**
書面審査	令和6年7月下旬 ～8月下旬（予定）
ヒアリング審査	令和6年9月上旬 ～9月中旬（予定） ※ 本公募ではヒアリングを実施します。 対象課題の研究開発代表者に対しては、原則としてヒアリングの1週間前までに、電子メールにてご連絡します。
採択可否の通知	令和6年10月中旬（予定）
研究開発開始 （契約締結日）	令和6年10月下旬（予定）

本日のスケジュール

1. **概要説明**
   事業概要、公募概要、応募に必要な書類・提出方法、
   応募書類作成上の注意、主なスケジュール

2. **ヒト全ゲノムシークエンス解析のプロトコール情報の提出について**

3. **各Fieldの概要**

4. **終わりに**

公募HP
https://www.amed.go.jp/koubo/15/01/1501B_00111.html

ヒト全ゲノムシークエンス解析の
プロトコール情報の提出について

■ AMEDは、政府の方針に基づき、様々なAMED研究課題で得られたヒト全ゲノムシークエンスデータをとりまとめて大規模なデータセットをつくり、研究開発に提供する基盤「AMEDデータ利活用プラットフォーム」の整備を進めています。

■ 全ゲノムシークエンスデータの大規模解析には、個別のデータの解析プロトコールが揃っていることが、解析結果の精度に直接影響します。そのため、AMEDは、国費を投じて得られたデータを利活用した研究開発において精度の高い解析が可能となるよう、 このプラットフォームが窓口となり共有されるヒトの全ゲノムシークエンスデータには、政府の方針※に基づき以下の2点を求めています。

① 既にプラットフォームで共有予定となっているデータと品質を同等に担保すること

② ゲノム解析の先進諸国との国際共同研究でも円滑に活用可能であること

※厚生労働省　第２回「全ゲノム解析等実行計画」の推進に向けた検討会議（令和３年２月１６日、資料1）
　内閣官房健康・医療推進戦略本部　第８回ゲノム医療協議会（令和４年３月３０日、資料3、参考資料3）

■ 既にこのプラットフォームで共有予定となっているヒト全ゲノムシーケンスデータとは、現時点では、内閣官房健康・医療推進戦略本部の第５回ゲノム医療協議会（令和３年３月16日）参考資料3で示されたデータのことです。

■ ゲノム解析の先進諸国との国際共同研究とは、現時点では、英国のUK BiobankおよびGenomics Englandや、米国のAll Of Usなどの海外の大規模ゲノムデータリソースを用い、ゲノム医療研究で先行する欧米の研究機関と共同して実施するような研究を想定しています。

■ AMEDは、この目的を達成するため、全ゲノムシークエンスの解析プロトコールが公募要領の「3.2.7　データシェアリングについて」に記載されている以下の**5つの要件**を満たしているか確認しています。

- ライブラリー作成（キット名、断片長等）
- シークエンス反応（キット名、リード長等）
- 解析装置の機種名（機種名・型番等。外注の場合は外注先も記入）
- クオリティーコントロール（QC）の方法
- リファレンスゲノムとのマッピング及びアセンブルの方法

※ 全ゲノムシークエンス解析
次世代シークエンサーを利用した全ゲノムシークエンス解析及び全エクソーム解析を指します。なお、次世代シークエンサーを用いる解析のうち、全ゲノムまたは全エクソーム以外を対象とするゲノム解析や、アレイ解析、サンガー法によるシークエンス解析は含みません。

■ ヒト全ゲノムシークエンス解析を実施する研究課題は、所定の様式※ を提出することにより、解析プロトコールの各項目を示す必要があります。様式が提出されていない場合には応募申請は「不受理」となり、審査の対象となりませんので、提案課題におけるヒト全ゲノムシークエンス解析の実施の有無については十分に注意してご判断ください。

※ ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式

本日のスケジュール

1. **概要説明**
   事業概要、公募概要、応募に必要な書類・提出方法、
   応募書類作成上の注意、主なスケジュール

2. **ヒト全ゲノムシークエンス解析のプロトコール情報の提出について**

3. **各Fieldの概要**

4. **終わりに**

公募HP
https://www.amed.go.jp/koubo/15/01/1501B_00111.html

各Fieldの概要

Field1：がんの予防に関する研究

新たながんの１次・２次予防の実現に向け、発がんリスクの層別化・個別化を行い、個人に最適化されたがん予防を確立することが求められています。遺伝子変異、遺伝子多型やそれらと相互作用する生活習慣や感染症といった要因も科学的に明らかになってきましたが、予防介入を目的としたエビデンスの蓄積は不十分です。

また、近年、リキッドバイオプシー等の検出技術、オミックス解析、画像解析を含む統合解析の技術が格段に進歩しています。これらも踏まえたより精緻な発がんリスクの予測や、早期発見が困難ながんに対する診断技術の開発、既存の検診と比較して簡便・低侵襲かつ受診の場を限定しない検診技術の開発、新しい方法の効率的な社会実装を推進することが重要です。

これらの課題を解決するため、以下のサブ項目で研究開発課題を募集します。

サブ項目	公募研究開発課題
1-1-1	がん予防の実現に資する基盤的研究と標的妥当性の検証
1-1-2	がん予防の実現に資する基盤的研究と標的妥当性の検証【若手育成枠】
1-2	個人の発がんリスクを評価するコホート研究（疫学研究）
1-3	個人の発がんリスクに応じたリスク低減手法またはハイリスク者の新たな先制医療に関する研究
1-4	検診への導入をめざした診断技術の開発に関する研究
1-5	予防法や新たな検診手法の実用化をめざした大規模疫学研究

Field2：がんの診断・治療技術開発に関する研究

がん患者がより良いがん医療を享受するためには、がん医療に係る診断・治療技術の開発を加速させるとともに、それらの速やかな医療実装が必要です。
がんの診断・治療技術の開発においては、以下のような研究開発課題が求められています。

- ✓ 簡便かつ低侵襲な手法による治療効果・有害事象等の予測を目的とした新規技術開発
- ✓ 新たな科学技術を活用した個別化医療の推進に資する診断・治療技術の開発
- ✓ 診断精度の向上に資する画像診断・イメージング技術に関する研究
- ✓ 患者に優しい低侵襲治療・検査のための新規技術開発

Field 2 では、それらの速やかな医療実装を強く推進するために、実用化に向けて企業導出、薬事承認、保険収載などの出口を目指す研究開発課題を公募します。

サブ項目	公募研究開発課題
2-1-1	バイオマーカーを用いた診断技術の確立と実用化に関する研究
2-1-2	バイオマーカーを用いた診断技術の確立と実用化に関する研究【若手育成枠】
2-2	がんの診断・治療における新規医療機器開発と実用化に関する研究
2-3-1	新たな診断情報が得られる先進的な医用イメージング技術の確立に関する研究
2-3-2	新たな診断情報が得られる先進的な医用イメージング技術の確立に関する研究【若手育成枠】

Field3：がんの新規薬剤・治療法の開発に関する研究

AMED

がんの難治性の本態を踏まえた新規薬剤・治療法の実用化に向け、アンメットメディカルニーズに応える新しい治療法の開発が求められています。
また、ドラッグラグやドラッグロスの解消を目指す新規薬剤や治療法の研究の推進も重要です。
同時に、我が国において高度に発達している腫瘍病理学と多層的分子網羅的解析技術、高度な臨床情報の収集・解析等の組み合わせにより、臨床情報を基礎研究へフィードバックするリバーストランスレーショナル・リサーチを推進するとともに、がんの本態解明に基づいたアカデミア等発の革新的な創薬標的に対するがん医療シーズの効率的な創出と育成を継続的に推進することが求められています。

以上を踏まえ、Field3では8つのサブ項目で研究開発課題を募集します。

サブ項目	公募研究開発課題
3-1	新たながん治療薬（再生医療等製品を除く）の治験（医師主導治験又は企業治験）への移行・導出の準備を完了することを目的とした非臨床試験
3-2	新たながん治療薬（再生医療等製品を除く）の開発・薬事承認を目指した医師主導治験
3-3	既承認薬（再生医療等製品を除く）の適応拡大等によるがん治療薬の開発・薬事承認を目指した医師主導治験
3-4	新たながん治療薬（再生医療等製品）の治験（医師主導治験又は企業治験）への移行・導出の準備を完了することを目的とした非臨床試験
3-5	新たながん治療薬（再生医療等製品）の開発・薬事承認を目指した医師主導治験
3-6	新たながん治療薬（再生医療等製品を除く）及びコンパニオン診断薬の実用化に向けた研究【若手育成枠】
3-7	新たながん治療薬（再生医療等製品）及びコンパニオン診断薬の実用化に向けた研究【若手育成枠】
3-8	臨床上の課題解決に繋がるがんの機序解明と実用化に資する挑戦的研究【若手育成枠】

Field4：がんの標準治療の確立、ライフステージに応じたがん治療に関する研究

がん医療の進展に伴い、多様な治療選択肢が生まれており、がん患者・経験者が長期生存することで、患者のニーズは多様化しています。一方で、我が国の医療費の高額化は社会的な課題です。
こうした状況を踏まえ９つのサブ項目にて研究開発課題を応募します。

- ✓ 治療最適化の観点や、支持療法及び緩和ケアにおける幅広いアンメットメディカルニーズに応じた標準治療の確立に寄与する臨床試験
- ✓ ライフステージに応じた、小児がん・AYA世代のがん、高齢者がんに関する臨床試験
- ✓ がんの特性に着目した、希少がん、難治性がんに関する臨床試験

サブ項目	公募研究開発課題
4-1-1	より有効または、より低侵襲な標準治療確立のための多施設共同臨床試験
4-1-2	高額薬剤の投与法等を検討する多施設共同臨床試験
4-1-3	科学的根拠に基づくがんの支持療法・緩和ケアの開発に関する研究
4-2-1	小児がん・AYA世代のがんの治癒率向上と晩期合併症低減の両立を目指した標準治療確立のための臨床試験
4-2-2	小児がん・AYA世代のがんを対象とした支持療法・緩和ケアの標準治療確立のためのプロトコール作成研究
4-3	希少がんの標準治療確立のための臨床研究
4-4	高齢者のがんに関する臨床研究
4-5	難治性がんの標準治療の開発に関する臨床研究
4-6	小児がん・AYA世代のがん及び希少がんの治療開発に資するレジストリ及びバイオレポジトリ研究

本日のスケジュール

1. **概要説明**
   事業概要、公募概要、応募に必要な書類・提出方法、
   応募書類作成上の注意、主なスケジュール

2. **ヒト全ゲノムシークエンス解析のプロトコール情報の提出について**

3. **各Fieldの概要**

4. **終わりに**

公募HP
https://www.amed.go.jp/koubo/15/01/1501B_00111.html

終わりに

公募に関するお問合せ

- 提案内容そのものに関するご相談、ご質問にはお答えできません。

- 今後、ご疑問、ご質問等ありましたら、下記宛先にメールにてお問合せください。

  各Field、サブ項目に関する質問の場合は、件名に「Field」または「サブ項目」の記載をお願いします。
  （記載例） 件名：【令和6年度二次公募 質問】Field3-5についての質問

  全体に関する質問の場合は、以下のような件名の記載をお願いします。
  （記載例） 件名：【令和6年度二次公募 質問】全体についての質問

  宛先： 日本医療研究開発機構
  革新的がん医療実用化研究事業　公募担当

  kakushingan@amed.go.jp
  か く し ん が ん